I-6

「王道」（C ルート）沿いの Pr.Trom の基本構成について
カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査（36）
On Pr.Trom along C Route of the Royal Road
A study of Royal Road, Bridge and Dharmaçala in Angkor period (36)

片桐正夫 [1]，石澤良昭 [2]，重枝豊 [3]，○チエン・ラタ [4]，小島陽子 [5]，
Masao Katagiri[1],Yoshiaki Ishizawa[2],Yutaka Shigeeda[3], *Chhean Ratha[4], Yoko Kojima[5]

１．はじめに

アンコール王国の「王道」及び沿道構築物に関する調査の報告をこれまで行ってきた[1]が，未開拓の地域にあって，なおかつ地雷が未処理のために踏査できていないルートが残されている（図 1）.

最近になってカンボジア政府の国内開発計画が実施されつつあると同時に中国などとの大規模な共同開発事業が具体化しつつあり，新道の建設が盛んである．このような中で，未調査の「王道」及び遺跡が破壊されることのないよう，少しでも入りこめる地域がある場合には極力調査に入り，遺跡の存在確認とそのデータの収集を行い，カンボジアの文化芸術省及び APSARA など関連諸機関への情報の提供を行っている．本稿及び次稿では，2012 年の 1 月と 3 月に踏査を行った遺構について報告を行いたい.

２．調査遺構について

調査地域は，アンコール地域からベンメリア，さらにラオスのワット・プーへと北東にのびるルート（C ルート）の中で未踏査であったベンメリアからコーケーにいたるまでのルートの一部である（図 2）．新道から南西－北東に約 5km 圏内（図 3）に，伽藍を３つ（Pr.Trom，Pr.Don Ok，Pr.Kantuy Chorn），橋を４つ（Spean bi，Spean Tadev，Spean Khmeng01，Spean Khmeng02），貯池を４つ（Popol，Don Ok，Kantuy Chorn，Khchorng）確認した.

フランス極東学院（EFEO：École française d'Extrême-Orient）とカンボジア文化芸術省による 2007 年発行の遺跡地図[2]（図 2）では，Pr.Trom や Pr.Don Ok の位置情報は記載されているものの王道の位置が不確定とされている．今回の調査で王道の位置を特定できたことにより，Pr.Don Ok が「王道」の東側に位置していることが明らかとなった．これらの遺構のうち，本稿では，実測図面を作成した Pr.Trom について報告する.

３．Pr.Trom の基本構成について

Pr.Trom は，王道の西側に位置する（図 3）小伽藍である．伽藍はラテライト造の周壁で囲繞され，周壁の北東に貯水池を有する．周壁は，東側一方に開いているが，塔門はみられず，出入り口のみで構成されている．周壁内には，中央に砂岩造，その両脇にラテライト造の３基の祠堂が南北に一列に配されている．その他，経蔵などの建築は確認できない．Pr.Trom に関する

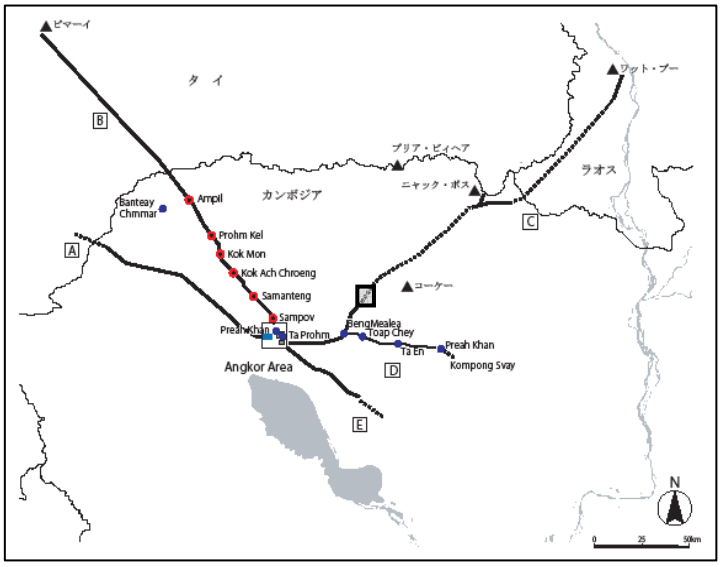

図 1.　調査したルート（図中□の範囲）

図 2.　ベンメリアからコーケーへ至るルート

1：日本大学・名誉教授　2：上智大学・特任教授　3：日大理工・教員　4：アプサラ機構　5：日大理工・研究員

資料として，フランス極東学院（EFEO）による図面[3]（図 4）がみられるが，祠堂の構成などに不明な点があることから，新たに実測図を作成した（図 5）．

中央の祠堂は，砂岩造の主室とその東前面にラテライト造の前室を設けた構成である．主室は，1,850 ㎜四方の方形の内部空間をもち，東側一方にのみ開口し，他の 3 面は偽扉で構成されている．外壁は，石材を積み上げ，柱頭・脚部の繰形や破風などの大まかな外形を削りだした状態であり，装飾や文様は一切みられないことから，工事が未完であると思われる．このため，施工のための削り線やマークなどが残されており，建設工事の一端が伺えて面白い．また，主室の東側正面の外壁も脚部や柱頭の繰形の外形が削りだされており，その面に前室のラテライト壁がつきつけられている．これより，ラテライト造の前室は，創建時には計画されていなかったといえる．前室が付加された時期は明らかではないが，少なくとも主室の砂岩壁が積みあげられ，繰形などの大まかな材の削りだしが行われた後であるといえる．

また，中央祠堂前室の壁のラテライトブロックの大きさや積み方が，南と北の副祠堂のそれと酷似していることから，中央祠堂の前室が増築された頃に南北の副祠堂も増築された可能性が高い．このように，創建時には祠堂 1 基で構成されていた伽藍に増改築が加えられ，祠堂 3 基を配した伽藍に整備された例は数多くみられる．Pr.Trom は，中央祠堂と副祠堂が，材料も建築構成も異なるという点で，特徴のある伽藍である．

Pr.Trom では碑刻文が確認されていないため，創建年代は明らかでない．Pr.Trom が位置する地域は，王都アンコールから離れた一地方であり，都城の建築技術とは差があると考えられるため，断定はできないが，砂岩壁の横目地が揃っているなどの丁寧な施工精度を考慮すると，概ね 12 世紀以前に造営されたものと考えられる．

４．まとめ

ベンメリアからコーケーへ至る「王道」の位置を特定し，沿道の遺構の状況について整理した．Pr. Trom は，創建当初は 1 基の祠堂で構成されていたが，後に 3 塔式の伽藍に整備された可能性が高い．周辺遺構の伽藍の整備状況と併せて，創建年代の考察を行うことが今後の課題であるが，このような沿道遺構の整備の状況を明らかにすることは，「王道」各ルートの整備の特徴を明らかにする上でも，重要である．

本調査はアンコール遺跡国際調査団（団長　石澤良昭上智大学特任教授）の建築班としての調査成果である．

〔参考文献〕
1）LUNET de LAJONQUTERE, E., 1902-11 ,Inventaire descriptjf des monuments du Cambodge, 3 vol., EFEO,Paris,
2）BRUGUIER,B.,2000,“Les pontsen Pierre de Cambodge ancien;Amenagement ou controle du territoire?”BEFEO,87: 529-551
3）Am,SokRithy.,2005, “ bondanyu plaw samai angkor nung racana sompoan peak poan（アンコール時代の道路網とその複雑な構造）” UDAYA :39-78.
4）CARTE ARCHEOLOGIQUE DU CAMBODGE OROVINCE DE SIEM REAP,Ministere de la culture et des beaux-arts,École française d'Extrême-Orient,Juin2007

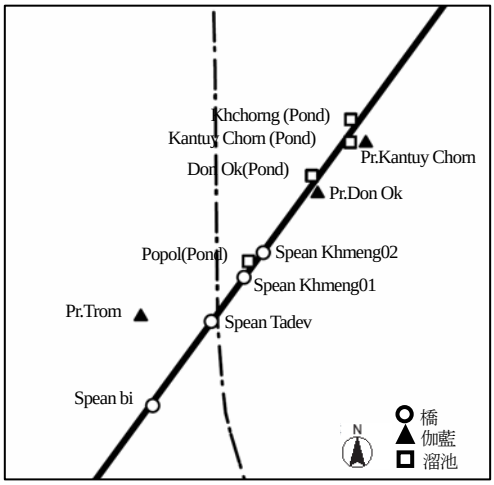

図 3.　調査遺構の分布

[1] カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査 1～35
[2] 文献 4）
[3]Carte Interactive des Site Archeologique Khmer (http://www.site-archeologique-khmer.org/)

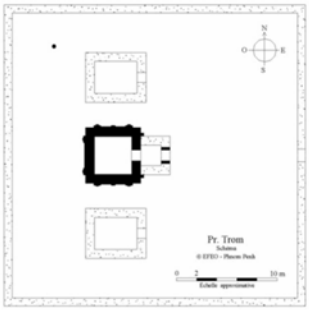

図 4. フランス極東学院による Pr.Trom の平面図

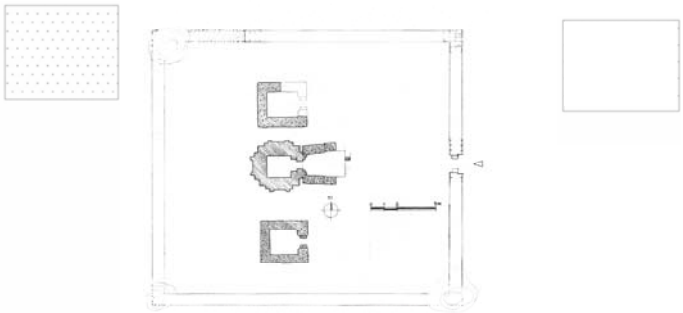

図 5. 実測調査による Pr.Trom の平面図

写真 1. Pr.Trom の立面